

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300270		
法人名	有限会社 クレイドル		
事業所名	グループホーム もみの木 (西棟)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字北東川171		
自己評価作成日	平成22年12月18日	評価結果市町村受理日	平成24年 5月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は毎日散歩に出かけており、地域の方から気軽に声をかけて頂きお花や野菜を頂く事もしばしばあります。 ・口腔ケア、手洗いの徹底と利用者さんの健康管理に気をつけています。 ・利用者さんの誕生日の日を大切に1対1で行きたい所、食べたい物などの希望を叶えてあげられる支援をさせて頂いています。 ・ボランティアさんの応援も多くあり利用者さんが楽しみに待ってられます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300270&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「天気の良い日は散歩に出かけている」という事業所の日課の通り、今回の訪問調査時にも丁度支度をして出掛ける支度の真っ最中の利用者に出会った。どの顔も笑顔で嬉しそうに挨拶をしてくださり、前の週に降った残雪が所々に残る中、活き活きと活動する喜びが感じ取れた。玄関を一步入ると廊下には一面に利用者が周辺の行楽地へ出掛けた思い出の写真が展示しており、ホームの利用者と楽しみを共有する有り様がうかがえる。利用者を大切に思い、家族同様に日々楽しい生活を心掛けている事が、写真のこぼれる笑顔で容易に推察できる。</p> <p>個別支援にも積極的に取り組み、利用者一人ひとりの誕生日は希望実現の日と決め、意向や要望を聴き取り、希望実現を実践している。思い出の写真に残る笑顔が、利用者の満足度を十分に表している。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年 1月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時、唱和し共有している。 6項目の重みを感じ同じ気持ちで行っていきけるように日々努力している。	ホームの掲げる理念は地域密着サービスの在りかたを明示しており、朝礼時毎日唱和して理念の共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加(弘法様・納涼盆踊り) ・保育園児(年2回ふれあいをする) ・高雄小学校とのふれあい交流会 ・子ども110番の緊急避難場所	地域とのつながりは、毎日の散歩の際に行き交う人より声を掛けて頂いたり、野菜や花を頂くなど日常的な交流は十分感じ取れる。地域からもボランティア等、事業所全体の支援がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・キャラバンメイトの研修あり(管理者) ・スタッフ全員、認知症サポーター養成講座を受講する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町役場 ・地域包括支援センター ・町会議員 ・民生委員 ・ご家族代表(2家族) ・利用者代表 ・地域代表 *毎回色々な話題が出て話し合います。	運営推進会議を年6回行なっている。3ヶ月に1回行っている家族アンケートの意見を、運営推進会議に提案・検討をした事例もある。認知症高齢者理解の情報提供も積極的に行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に出席して頂いた町役場、地域包括の人達と親しく声を掛け合えるようになった。相談したり待機状況の連絡を密にしている。	運営推進会議には毎回同じ町職員・地域包括支援センター職員の出席が叶い、ホームの状況が理解してもらえる良い関係になっている。会議以外でも、相談・報告を通じ、適切な指導・助言をもらい、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・扶桑町高齢者虐待ネットワーク、運営委員会の委託を引き続き受ける。 ・昼間は絶対に施錠しない方向で行っている。	身体拘束は行わず、玄関の施錠も無い、利用者の自由を保障する方針がある。管理者は、日常支援の中で事例ごとに指導を行い、利用者本位の支援を周知している。	全職員の外部研修参加が叶わない状況も理解できることから、ホーム内研修開催の検討が期待される。職員が一堂に会し、共通理解を深めるのも一考であると思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	けがや打撲等が無いか入浴時に利用者様の体に気を配っている。 夜勤者も2人対応で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解いつでも制度を必要とされている方においては地域の専門職の協力が得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、利用者・家族に説明し同意を得ている。又、何か不安や疑問点等はいつでも説明できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとに利用者家族にアンケートを出して集計をし、次の会議での課題としている。	3ヶ月に1回の家族へのアンケートは、利用者・家族の意見や要望聴取の良い機会になっている。運営推進会議にも、アンケートの中から課題の提出があり、早期に問題解決できた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との会議があり意見や提案を話し合う。それをスタッフに説明したり回覧したりしている。毎朝のショートミーティングは代表者の提案。	毎朝のショートミーティングで職員意見の聴取を行っている。利用者支援の意見や提案については、職員間で話し合い検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務希望を全員聞いて100%応じている。「ありがとう」と言い合える職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は全て受講している。ヘルパー2級養成講座の研修先の受け入れも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症GH協会に加入 扶桑町のGHの合同研修にも積極的に参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員、家族、本人を交えて話し合いをしている。(時間をかけている)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学を必ず本人、家族として頂いて納得して入所してもらっている。施設の雰囲気作りが大切。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が親切丁寧に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家族同様に暮らせる支援を心がけている。利用者さんと共に「泣いたり」「笑ったり」時には怒られたりと生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族と利用者さんとの関係を春には行楽へ出かけ(マイクロバス)、秋には収穫祭としてもみの木と一緒に食事をしてもらっている。ほとんどの家族が参加されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っておられた喫茶店、食材の買出し、利用者さんが入院されておられたらお見舞いに出かけている。	利用者の生活歴に合わせ、カラオケや喫茶店等、馴染みの場所へ出掛ける支援を行っている。趣味の継続(手芸等)も支援し、要望のある利用者の、楽しみが途切れないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の口喧嘩もされる。トイレへ一緒に行かれたり、散歩時に必ず手をつないで行かれたりされている。それなりに関わりを持った生活を見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても次の病院、施設と連絡をとり訪問させてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集(本人、家族、介護支援専門員他)お1人お1人の生活歴を大切に援助させてもらっている。	利用者との日々の関わりの中から本人意向や希望を聴取している。内容は職員間で周知・共有し、希望実現に向けた取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんに生活歴を聞いてから家族に確認させてもらいそれをもとに引き出していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく記入された日報、申し送りノート、ショートミーティングから24時間の行動の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の細かな、又、的確なアセスメントがなされ家族に説明、同意してもらいそれに沿って援助計画がなされている。又、フロアー会議がなされすぐに見直しできる体勢になっている。	介護計画は個別性があり、利用者・家族の要望に応じた支援に取り組んでいることが分かる。また、職員意見も取り入れ、より現状に即した介護計画になるように立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録類は各棟事務所でいつでも見れるようになっている。毎朝の朝礼、申し送りノートやショートミーティングで情報を共有できている。毎朝、朝礼時にケアマネからの見直し等発表あり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医院の提携医あり 緊急時の病院の確保 年1回の健康診断(X線心電図) 3ヶ月ごとの採血 毎月各棟1回の往診(先生の助言は家族に必ず伝えている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な消防避難訓練の実施 全職員の救命救急講習実施 ボランティアの受け入れ ヘルパー2級受講生の研修受け入れ 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんが希望される医療機関への通院受診ができるよう対応している。協力医療機関以外への受診については家族対応としている。例外もあり。	利用者のほとんどがホームの提携医の往診で受診している。希望する他の医療機関や他科受診については、原則家族対応で受診を可能としている。利用者の希望に沿った医療支援を考え、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科医と医療連携の業務委託契約を締結でき、より良い適切な助言を頂き対応が早くできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はすぐに面会に行き今後の治療方針等相談できるようにしている。退院できるようにあればすぐに対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医、家族、本人、スタッフ等とその都度話し合いながら段階的に終末期に向けて安心して暮らして頂けるように援助(書類に同意書あり)	ホーム提携医の医師の協力があり、重度化する前に早めの対応に心掛け、家族に利用者の状態を説明し、利用者にとって最善の支援を選択している。医療が必要になった場合は、ホームでの看取りは行わず、病院等、他施設への連携をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、救命救急講習終了		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 地域「Dサポート丹羽」の災害に強い街づくりの活動に参加 夜間想定避難訓練実施 	夜間想定非難訓練を職員2名で行う等、実際の夜間職員の配置体制で行ない、職員の意識を高めている。運営推進会議で地域に協力を依頼し、もしもの場合に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報の記録等大切な書類は事務所の鍵のかかる書庫の中へ保管している。 ・入浴、排泄の時の声がけに注意しながら行っている。	個人を尊重した言葉掛けの対応に配慮している。利用者一人ひとりの性格や特性を把握し、踏み込める位置の職員周知で、職員同対応の体制に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お1人お1人の誕生日を大切に、行きたい所食べたい物等を出来る限り叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク等、1人1人のやりたい事を優先し塗り絵、貼り絵、週刊誌や新聞を読まれたり、ボール投げ、風船飛ばし等はスタッフが対応している。居室に入られないよう寝られないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月(第3火曜日)に美容室のカット、顔そりあり。床屋さんはその都度毛染めは美容院まで出向いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時の食卓、膳拭き、配膳は出来る人に声をかけて行ってもらい、下膳は特別に出来ない方以外はやってもらっている。スタッフも同じ食卓と一緒に食事をしている。	食事の準備から片付けまで、利用者が職員と一緒にになって行なっている。食後が遅い利用者が終了するまで全員が席を立つ事も無く、雑談しながら見守っている和やかなひと時がとても良い環境にある。職員の言葉掛けや介助は適切で、温かい配慮がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって粥の人、細かく刻む人等、器もかえたり食べやすくしている。食事が摂れない人はラコールで対応させてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に毎食後の口腔ケアには気をつけている(チェック表重視)日曜日は義歯の消毒日		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は布パンツ、パット対応し個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導をさせてもらっている。夜間はリハビリパンツ、パット対応し上記のようにおむつ、ゴミを減らしている。	排泄は個別に対応している。個人の排泄状況を把握・理解し、適切なタイミングで誘導して、トイレでの排泄を可能にしている。利用者一人ひとりへの対応に、細かい職員の配慮が感じ取れた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立に気をつけている。水分摂取に心がけている。又、提携医と相談して便秘薬を処方してもらっている。排便パターンに特に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、月・水・金 東棟 火・木・土 西棟 いつでも入浴出来る。	利用者は、ユニットの入浴日は決まっているが、両ユニットで毎日の入浴が可能である。毎日の入浴希望者もあり個別の対応が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように昼間の居眠りには気をつけています。眠剤は飲まないようにしている。昼間のレクを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用まで四重チェックの体制をとっている。日付、本人の名前を確認してから本人の手にお口の中に入れ飲まれるまで見守る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の買出し、洗濯干し、たたむ。各棟でトランプ、ボール投げ、ボール転がし等個々の支援をしている。喫茶店や病院のお見舞いにも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、天気の良い日は全員で30分位散歩に出かけている。喫茶店、食事、お墓参りにも出かけている。	天気が良い日は散歩に出かけるのが日課になっている。季節の移り変わりや周囲の状況が体感ができる支援は、利用者の日常の一番の楽しみとなっている。ホームの行事外出、家族との外出、誕生日の希望実現外出等、できる限り希望に沿った外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事は皆さん気にされている。「お金が無くなった！」「盗られた！」が定番になっている。入所前に家族に説明し持って頂かないことで小口預かりあり。(往診代、喫茶店等)毎月残高を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の頻回な訪問があるので、それに対応出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下には折り紙、貼り絵、写真等がある。又、本人の居室の入り口にも作品が貼ってある。	ホームの玄関を入ると、両ユニットの中央の玄関フロアに、生花や金魚を配置し、季節や親しみを感じる雰囲気を作っている。廊下には利用者が出かけた行楽の写真を掲示する等、馴染みの居場所づくりにも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファベッドがあり、少し眠りたい人には寝て頂いている。応接セットもありエントランスにも応接セットがあり金魚に話しかけたりされる方もいる。仲間同士で会話されたり家族との会話の場所でもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物以外は何でも持ち込みOK。使い慣れた家具、仏壇を持ってこられている方もおられる。仏壇の花、水も毎日確認させてもらっている。	利用者の生き生きとした様子で、利用者の状況を十分に図り知る事が出来る。馴染みのもの、使い慣れた物を何でも持ち込んでもらい、居心地の良い居場所づくりで利用者の安心に配慮し、不安なく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階平屋建ての建物で各棟との連携交流もでき、玄関を中心として往来し楽しみやすくなっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300270		
法人名	有限会社 クレイドル		
事業所名	グループホーム もみの木 (東棟)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字北東川171		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300270&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年 1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は毎日散歩に出かけており、地域の方から気軽に声をかけて頂きお花やお野菜を頂く事もしばしばあります。 ・口腔ケア、手洗いの徹底と利用者さんの健康管理に気をつけています。 ・利用者さんの誕生日の日を大切に1対1で生きたい所、食べたい物等の希望を叶えてあげられる支援をさせて頂いています。 ・ボランティアさんの応援も多くあり利用者さんが楽しみに待っておられます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で6項目からなる「理念と使命」を唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りやカラオケ大会に参加したり近くの保育園や小学生が「ふれあい」で訪問して下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全職員が認知症サポーター養成講座を受ける。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場、地域包括支援センター、町会議員、民生委員、ご家族代表、ご利用者様代表に出席して頂いている。外部の方がどのような視点で見ているのかやご家族の思い等が分かり貴重なお話を伺えることもある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や町主催の連絡協議会等を通して親しく声をかけて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、昼間は施錠はしないという方針で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣の際にけがやあざができていないか等注意深く観察するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町等が主催で開催している研修に参加させて頂き理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご利用者様のご家族に説明を行い同意を得ている。入所にあたり不安に思っている事などを十分に聞き取るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとにご利用者様家族に向けてご利用者様、職員の対応等についてアンケートを実施している。結果を集計しその結果を反映できるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との会議の内容を管理者より申し送りや資料による回覧がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休み希望を全面的に考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加させて頂いている。ヘルパー2級養成講座の研修生を受け入れることで、スタッフが刺激を受け新たな気持ちで仕事に携わっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同町内のグループホームとの合同研修に参加し、困難な事例への対応等意見を出し話しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネによる、ご本人や家族から聞き取り、アセスメントの活用、普段の会話で得たご本人の不安や希望等から情報をキャッチしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や不安、心配ごと等話をじっくり傾聴するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	悩まれたり困っておられる時、普段の様子を見て頂くよう見学して頂き、納得されてから申し込みをして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をし冗談を言って笑いあったり、時には人生の先輩でもある利用者様に子育てや人生についての助言を頂いたり、一緒に縫い物をしたりと日々過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問された時には利用者様の最近の様子を細かく伝えている。行楽や行事にはほとんどのご家族が参加され一時でも一緒に過ごして頂けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会があるごとに馴染みにしていた喫茶店や買い物に出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士性格が合わない方もありますが、それぞれの嗜好や趣味を考慮して家事やレクと一緒に参加して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によって契約が終了しても出来る限り訪問させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何げない会話から本音が聞けることもあるので、普段から情報収集するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、一緒に生活されていたご家族からお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や申し送りノート、ショートミーティングの活用、職員への聞き取りをし24時間の様子を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の希望、担当者会議やショートミーティングでの職員の意見等反映できるように作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやショートミーティング、日報を活用し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日にはご本人の生きたい所、食べたい物等をお聞き出来るだけ希望に沿うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全職員が救命救急講習を受講している。 ボランティアの受け入れ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望される医療機関への受診ができるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医との訪問看護の契約により相談や助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	すぐに面会し病院や家族と治療、退院後について等相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医、ご家族、本人、職員と何度も話し合いながら状況に応じて対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を実施している。 地域の「Dサポート丹羽」に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時、排泄の際のドアの開閉時や汚れていた時の相手の気持ちを配慮した声掛けの仕方など日々気をつけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中に表れることが大いにあるので聞き逃さないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の趣味や嗜好を尊重し、レクはやりたい事をして過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容と毛染めの希望は美容院へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様の出来ることに合わせてテーブル拭きや配膳、食器拭きなどして頂いている。職員も利用者様と会話をしながら一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせてお出ししている。特に水分摂取が不足しないように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りをして出来るところはご本人にやって頂き、汚れが残っていないか確認している。確実に口腔ケアが出来るようチェック表を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はできるだけ布のパンツとパットを使用し、個々の排泄パターンに沿ってトイレで排泄して頂くようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い献立作りや水分摂取が不足しないように気をつけている。提携医により便秘薬を使用されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	東棟は月・水・金、西棟は火・木・土いつでも入浴できる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はぐっすり眠って頂けるよう、昼間はリビングでレクに参加し活動して頂くようにしている。眠剤は飲んで頂かないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いが無いように4重のチェックをしている。服薬の際には名前と日付を声に出して確認し、口に入った事や飲み込んだかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に、レクや家事等好きな事や得意にしている事をして過ごして頂く様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。喫茶店や外食に出かけられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前にご家族に説明をし、往診代や喫茶店代等のために預らせて頂いている。毎月月末に残高を家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知り合いの方等頻繁に訪問して下さっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスには金魚の水槽や植物がある。応接セットがありご家族の訪問時や利用者様同士の憩いの場になっている。リビングは日当たりがよく応接セットもあるので各々好きな場所に座って過ごされている。壁には貼り絵や塗り絵等の作品が展示してある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	応接セットとソファもあり気の合う方同士が談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新品は自分の持ち物と認識できない方もおられるので、使い慣れた家具や身の回りの物を持って来て頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋造りでバリアフリー、廊下には手すりを設置。トイレやお風呂場の入り口には張り紙をし、居室の入り口にはご本人の写真を貼り分かりやすくしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム もみの木

目標達成計画

作成日: 平成 24年 5月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	トイレ使用されている時の確認や居室への入室の際のプライバシーへの配慮が少し欠けている。	入室の際には必ずノックをして知らせ、利用者様のプライバシーを守る。	朝礼、ミーティング時に毎日伝える。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。